



話し合いと現地の見学を経て、生徒達は、才井戸流の自然観察及び水質分析の実施、周辺の清掃作業、そして自然観察池を作るお手伝いという形で参加させて頂くことになりました。高等部の環境

科学の授業に連動した、生物や水質の調査から、地域の皆さんとともに、いかにして人間と自然が共存出来る環境を作り上げるかを追求する取り組みへと発展していくことになったわけです。それは期せずして、教育を通してより良い世界の創造を目指すIBプログラムがLearner Profile（理想の生徒像）として掲げる特性のひとつ、「他人や環境に対しての思いやりがある人」とも合致しており、生徒達には様々な意味で大変貴重な学習機会となりました。

● 人間と自然の共存のために

2月のある日、生徒たちは再び才井戸流を訪れました。この約1ヶ月前には「きれいにする会」の皆さんの手で、川のすぐ近くに新しい池が出来上がっていました。豊富な地下水をたたえた土壌からは、穴を掘るとすぐにぽこぽこ水が湧いてきたのだそうです。

まずは、才井戸流の湧き水と生活排水の流入水、それぞれのpH値*とCOD（化学的酸素要求量）**を測定しました。工事の影響による河川の汚染を調べるため、今後も定期的な調査を続けます。

次に、才井戸流に住む生き物を網ですくって調査しました。慣れない作業に加え、生き物の活動が少ない寒い季節だったためか、なかなか思うようにすくえず悪戦苦闘したものの、約1時間の作業で、メダカ、ドジョウ、スズエビ、タニシ、ザリガニ等が確認されました。生態系に影響を及ぼす外来種のザリガニを除き、川で見つけた生物は新しく出来た池に放流しました。春になればもっと生き物の活動が活発になり、この新しい池が多くの生き物の命を育み、初夏には沢山のホタルが水辺で幻想的な光を灯してくれることを祈ります。

周辺の開発は着々と進んでいきますが、この生態系を守るため、今後も生徒たちの活動は続きます。人間と自然の共存を目指して地域の皆さんと手を携えた、環境保全への取り組みは始まったばかりです。

* pH値 酸性、アルカリ性の度合いを示す数値。pH=7を中性とし、数値が小さくなれば酸性、大きくなればアルカリ性。自然水のpHは5～9。

** COD 代表的な水質の指標のひとつ。数値が大きいかほど水中の有機物が多く、汚濁の程度も大きい傾向にある。

名古屋国際学園 学校概要

名古屋国際学園（名古屋インターナショナルスクール）は、中部地方で唯一、全課程で米国西部地域学校大学協会（WASC）及び、国際バカロレア・ディプロマプログラム（IBDP）の正式認可を受けたインターナショナルスクールです。

愛知県だけでなく近隣の岐阜県、三重県からも、25カ国以上、約330名の生徒が通学しています。授業は全て英語で行われます。



Data

創立／1964年、生徒数／約330名

設置学部／幼児教育部（3～4歳児）、小学部（キンダーガーテン～5年生）、中等部（6～8年生）、高等部（9～12年生）

認可／米国西部地域学校大学協会（WASC）

国際バカロレア・ディプロマ・プログラム（IBDP）

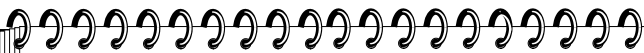
※2011年 国際バカロレア・初等教育プログラム（IBPYP）認定予定

スケジュール

米国の標準的なカレンダーに準じ、始業は8月下旬、終業は6月中旬となっていますが、入学選考基準を満たしていれば、編入は随時可能です。

卒業後の進路

卒業時には、アメリカのハイスクール卒業と同等の資格が得られるとともに、国際バカロレアのディプロマ資格を取得するチャンスもあります。卒業生の多くは、アメリカ、カナダなど英語圏の大学に進学します。近年では、早稲田大学、上智大学など、英語のプログラムがある日本の大学に進学した生徒もいます。



学校法人 名古屋国際学園

名古屋インターナショナルスクール

〒463-0002 名古屋市守山区中志段味南原 2686

TEL : 052-736-2025 E-mail : info@nis.ac.jp

http://www.nagoyais.jp/japanese（日本語）



環境・地域・共存。これらは現在日本が目指している教育のキーワードです。それらをアカデミックな学習と合わせて教育するのがIBの特徴です。ここで、NISの実践が報告されています。

日本の学校で4月から新指導要領が実施されています。しかし、その実態は目標、NISでの教育と反対の方向に向かっているように、私には思えます。補習校の教科書を一度ゆっくりご覧になっては？